

Rec'd PCT/PTO 23 FEB 2005

特 許 協 力 条 約

REC'D 18 NOV 2004

WIPO

PCT

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)

[PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の登録記号 W1189-00	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/10774	国際出願日 (日.月.年) 26.08.2003	優先日 (日.月.年) 26.08.2002
国際特許分類 (IPC) Int. Cl ¹ C07C311/46, 311/48, 311/49, 311/50, 317/28, 323/49, C07D213/75, 213/42, 279/12, A01N41/06, 43/40, 47/02		
出願人 (氏名又は名称) 日本農薬株式会社		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条 (PCT36条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。

☒ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。

(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)

この附属書類は、全部で 5 ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

I ☒ 国際予備審査報告の基礎

II ☐ 優先権

III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成

IV ☐ 発明の単一性の欠如

V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明

VI ☒ ある種の引用文献

VII ☐ 国際出願の不備

VIII ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 22.09.2003	国際予備審査報告を作成した日 22.10.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 前田 憲彦	4H 8318
電話番号 03-3581-1101 内線 3443		

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (1998年7月)

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に
応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。
PCT規則70.16, 70.17)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書 第 1-51 ページ、出願時に提出されたもの
明細書 第 _____ ページ、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書 第 _____ ページ、付の書簡と共に提出されたもの

☒ 請求の範囲 第 5 項、出願時に提出されたもの
請求の範囲 第 _____ 項、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
請求の範囲 第 _____ 項、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
請求の範囲 第 3-4 項、01.07.2004 付の書簡と共に提出されたもの

☐ 図面 第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
図面 第 _____ ページ/図、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
図面 第 _____ ページ/図、付の書簡と共に提出されたもの

☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☒ 請求の範囲 第 1-2 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	3-5	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	3-5	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	3-5	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1. WO 01/46124 A1(Nihon Nohyaku Co., Ltd.)2001.06.28
& JP 2001-240580 A & EP 1241159 A1

請求の範囲3-5は国際調査報告に示された文献1により進歩性を有しない。
文献1には農園芸用殺虫剤として有用な、一方のアミド基がアミノスルホニルアミノアルキル基で置換され、他方のアミド基がアリール基で置換されたフタルアミド誘導体が記載されているから、一方のアミド基の置換基をアミノスルホニルアルキル基にすることは、誘導体の創製において当業者が容易に想到し得ることである。

VI. ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書 (PCT規則70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
WO 03/11028 A1 [E, X]	13. 02. 2003	01. 08. 2002	01. 08. 2001
WO 02/94766 A1 [E, X]	28. 11. 2002	16. 05. 2002	18. 05. 2001

2. 書面による開示以外の開示 (PCT規則70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)
-----------------	------------------------------	--

請 求 の 範 囲

1. (削除)
2. (削除)

5

10

15

20

25

5

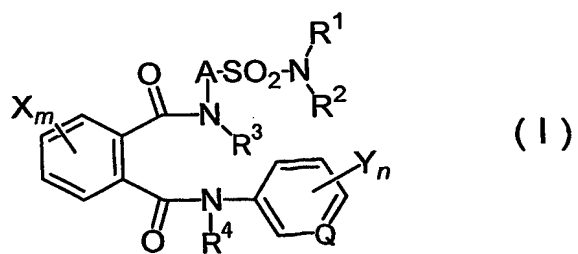
10

15

20

25

3. (補正後) 一般式 (I)



{式中、AはC₁-C₆アルキレン基を示し、

- R^1 は水素原子、 C_1-C_6 アルキル基、同一又は異なっても良く、ハロゲン原子、水酸基、 C_1-C_6 アルコキシ基、 C_1-C_6 アルキルチオ基、 C_1-C_6 アルキルスルフィニル基、 C_1-C_6 アルキルスルホニル基、 C_1-C_6 アルキルアミノカルボニル基、 (C_1-C_6) アルキルカルボニルオキシ基、フェニルチオ基、フェニル基、同一又は異なっても良く、ハロゲン原子、シアノ基、ニトロ基、 C_1-C_6 アルキル基、 C_1-C_6 アルコキシ基、ハロ C_1-C_6 アルキルチオ基、又はピリジル基から選択される1以上の置換基を有する置換 C_1-C_6 アルキル基、 C_3-C_6 アルケニル基、 C_3-C_6 アルキニル基、 C_3-C_6 シクロアルキル基、水酸基、 C_1-C_6 アルコキシ基、アミノ基、フェニルアミノ基、同一又は異なっても良く、ハロゲン原子、 C_1-C_6 アルコキシ基、又は C_1-C_6 アルキルチオ基、から選択される1以上の置換基を環上に有する置換フェニルアミノ基、又はピリジル基を示し、

- R^2 、 R^3 及び R^4 は同一又は異なっても良く、水素原子、 C_1-C_6 アルキル基、 C_3-C_6 アルケニル基、 C_3-C_6 アルキニル基、 C_1-C_4 アルコキシ C_1-C_4 アルキル基又は C_1-C_4 アルキルチオ C_1-C_4 アルキル基を示し、又、 R^2 はA又は R^1 と結合して、1～3個の同一又は異なっても良い酸素原子、硫黄原子又は窒素原子により中断されても良い3～8員環を形成することができ、該3～8員環は同一又は異なっても良く、ハロゲン原子、 (C_1-C_6) アルキル基、 (C_1-C_6) アルコキシ基から選択される1以上の置換基を有することもでき、

Qは炭素原子又は窒素原子を示し、

- Xは同一又は異なっても良く、ハロゲン原子、ニトロ基、 C_1-C_6 アルキル基、ハロ C_1-C_6 アルキル基、 C_2-C_6 アルケニル基、ハロ C_2-C_6 アルケニル基、 C_2-C_6 アルキニル基、ハロ C_3-C_6 アルキニル基、 C_1-C_6 アルコキシ基、ハロ C_1-C_6 アルコキシ基、 C_1-C_6 アルキルカルボニルオキシ基、ハロ C_1-C_6 アルキルカルボニルオキシ基、 C_1-C_6 アルキルチオ基、ハロ C_1-C_6 アルキルチオ基、 C_1-C_6 アルキルスルフィニル基、ハロ C_1-C_6 アルキルスルフィニル基、 C_1-C_6 アルキルスルホニル基、ハロ C_1-C_6 アルキルスルホニル基、 C_1-C_6 アルキルスルホニルオキシ基又はハロ C_1-C_6 アルキルスルホニルオキシ基を示し、又、芳香環上の隣接した2個のXは一緒になって縮合環を形成することができ、該縮合環は同一又は異なっても良く、ハロゲン原子、ニトロ基、シアノ基、 C_1-C_6 アルキル基、ハロ C_1-C_6 アルキル基、 C_1-C_6 アルコキシ

基、ハロC₁-C₆アルコキシ基、C₁-C₆アルキルチオ基、ハロC₁-C₆アルキルチオ基、C₁-C₆アルキルスルフィニル基、ハロC₁-C₆アルキルスルフィニル基、C₁-C₆アルキルスルホニル基又はハロC₁-C₆アルキルスルホニル基から選択される1以上の置換基を有することもでき、mは0～1の整数を示し、

- 5 Yは同一又は異なっても良く、ハロゲン原子、C₁-C₆アルキル基、ハロC₁-C₆アルキル基、又はハロC₁-C₆アルコキシ基、を示し、nは1～3の整数を示す。} で表されるスルホンアミド誘導体又はその塩類。

5

10

15

4. (補正後) 請求項 3 記載の一般式 (I) で表されるスルホンアミド誘導体
又はその塩類を有効成分として含有することを特徴とする農園芸用殺虫剤。

5. 有用植物から害虫を防除するため請求項 4 記載の農園芸用殺虫剤の有効量
を対象作物植物体、土壌又は水田に処理することを特徴とする農園芸用殺虫剤の

20 使用方法。